

5-3 地域貢献の取り組みについて

【5-3. 事実の説明】

エクステンションセンターでは、地域との共生を見据え、本学の所有する知的資源と教育研究情報等を広く社会に示すため、オープンカレッジをはじめ様々な機会を提供している。

(1) オープンカレッジ

語学・文化・創作・健康・子供向け講座等、前期（5月～9月）・後期（10月～3月）で開講した。実施した講座数は前期97講座、後期127講座で藤井寺駅前キャンパスを中心に、受講者数で見ると、前期延べ1,011名、後期延べ1,159名であった。

講師陣は本学教育職員・非常勤講師・外部派遣講師を含め、前・後期合わせて延べ54名が担当し、時間数で見ると、前期延べ861コマ、後期延べ1,013コマ行った。

(2) 介護技術講習会

平成22年度は8月と9月に計2回実施し、受講者は定員どおり各32名で合計32時間の講習を行った。指導者は本学教育職員3名、四天王寺福祉事業団各施設から8名委嘱し、それぞれ2回に分担して受講者の指導に当たった。その結果64名全員が合格し、介護福祉士国家試験の実技試験が免除される同講習修了証明書を手渡した。

(3) 教員免許状更新講習兼認定講習

平成22年度の教員免許状更新講習は8月初旬の5日間、認定講習は8月中旬と下旬に2回、3日間で実施した。更新講習の参加者は必修領域2日連続で108名、選択領域は3日間合わせて10科目を行い、延べ306名が受講した。また、認定講習は更新講習も兼ねて開講し、参加者は前半23名、後半11名が3日間連続で受講した。講師は本学教育職員30名、外部から1名招聘し、必修科目12時間、選択科目各6時間、認定講習各15時間を実施した。更新講習の受講者414名は全員合格し、履修証明書を本人宛てに送付した。併せて認定講習の受講者34名にも同じく履修証明書を送付した。

(4) IBU桜WEEKS

IBU桜WEEKSは平成10年度に本学キャンパスを開放したのが始まりである。

平成19年度から「IBU桜WEEKS」と現在の名称に変更し、期間も2日間から桜の見頃の土日を含む3週間とした。キャンパス内の桜を地域の人びとが観賞できるよう、本学キャンパスを開放し、平成22年度の来場者数は13,188名を数えた。

(5) 生涯学習フェスタ

平成22年度は大学祭（11月1日（月）～11月3日（水）の3日間）開期中の11月3日（水）に本学キャンパスにて開催した。日ごろ地域で各種活動を行なう団体の作品展示やリサイクル花器づくり、わら細工の体験教室および地域特産品の展示即売会、体験講座として、「写経教室」を実施した。また、今回は基調講演を止め、参加体験イベントとして、電子ピアノの伴奏に合わせて本学教授と一緒に懐かしい歌謡曲や童謡等をみんなで歌う「懐かしの歌広場」や、3B体操のインストラクター指導のもと「いきいき3B体操教室」を実施した。当日は6,612名が来場した。

(6) 各種講座等**① たいし塾**

統一テーマ「かけがえのない今を生きる ―時代と人間を見つめて―」と題し、第1期（4月～7月）「異文化との対話から学ぶ」、第2期（9月～12月）「般若心経を読み解く」を各期12回開講し、本学教育職員14名がそれぞれの専門分野の立場から講義し、延べ679名が受講した。

② 公開講座

テーマ「動乱の時代の思想と文学」と題して、10月に全4回を実施し、本学教育職員3名が受け持ち、延べ271名が参加した。

③ 公開講座フェスタ

阪神奈の大学・研究機関30団体が参加した同フェスタが11月に開催され、本学からは、「中江兆民と大阪」と題した講座を開き、45名が受講した。

④ 公開シンポジウム

2月26日（土）にテーマ「表現する力を育む」と題して開催し、本学教育職員の基調講演のほか、シンポジウム「表現力を生み出す基礎にあるものを考える」では、羽曳野市教育委員会教育長と本学教育職員2名をシンポジストに迎え、192名が参加した。

⑤ はびきの市民大学

前期（5月～8月）「日本仏教のあゆみ」「私の見た日本の社会と文化」、後期（10月～1月）「人間力に迫る」「情報が社会にもたらしたもの」と題し、12回または6回構成で開講し、本学教育職員24名がそれぞれの立場から講義し、延べ1,081名が受講した。

⑥ 講師派遣

6団体からの依頼を受け、その内4団体に4名の教育職員を派遣した。

(7) 高大連携

高校と大学が連携して行う教育活動の意義が広く認められ、高大連携の重要性が高まりを見せる中で、高校生が進路選択にあたって幅広い知識を持てるようにサポートすることを目的に、高大連携事業を本格的に始動した。大阪府立藤井寺高校、大阪府立北かわち阜が丘高校、大阪府立懐風館高校の3校と協定を締結し、本学教育職員が直接出向いて行う「出張講義」等の様々な教育プログラムを無償で提供した。また、平成22年度末、新たに大阪府立河南高校と協定を締結した。

【5-3. 自己評価】**(1) オープンカレッジ**

オープンカレッジは講座数が平成21年度より86講座増えた。その要因は、平成22年度より有限会社シテンノウジワークが同カレッジに委託参入し、「シテンノウジカルチャークラブ」として藤井寺駅前キャンパスに開設したことが挙げられる。同クラブはフィットネス講座などカルチャー部門を中心に企画・運営することで、大学では補いきれない部分を任せておけるため、語学、教養を中心とした講座内容に取り組むことができた。また、駅前キャンパスでは教室が空いた時間に本学とシテンノウジワークがそれぞれの講座を配当し、隙間を埋めることで教室の稼働率が上がった。

(2) 介護技術講習会

介護技術講習会では、受講者の申し込み状況が年々少なくなってきたおり、定員確保を心配したが、開講日までには定員を確保することができた。講習会では、数名の受講者には指導者が残って講習をするなど、担当者が全力で受講生の技量を向上させるべく腐心することにより、受講者は欠席することなく全員が修了することができた。

(3) 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習では、民主党に政権交代したことで、同講習会自体の今後の成り行きにまとまりがつかず、事前予測では参加者が少ないとの見方であった。しかし、募集をした結果、予測に反して必修科目には定員を超える申し込みがあった。また、選択科目でも若干の定員割れをした科目があったが、定員を超えた参加者で実施する科目もあった。具体的には情報処理（パソコン実習）、発達障害、国語、社会に人気があり、英語、理科、工作、音楽は受講者の好みも手伝ってか希望者が伸びなかった。

認定講習では2回とも定員には満たなかったが、前年度合計（25名）より多くの参加者（34名）があった。講習別に見ると、認定講習として受講した方は11名、認定講習と更新講習を兼ねて受講した方は7名、更新講習で受講した方は16名であった。

(4) I B U桜WEEKS

I B U桜WEEKSは、桜の開花時期の3週間の期間、本学キャンパスを一般開放している。特に見頃の土日、2日間は市民に親しまれるイベントとなっている。しかし、本行事は、桜の開花時期を考慮すること、当日の天候に左右されやすいことなどにより、毎年来場者数に格差が生じている。経費については以前、広報関係、会場設営関係、アトラクション関係等の経費がかなりかさんでいた。しかし、平成19年度より舞台発表はせず、本学の誇る桜の観賞をメインにした催しに変更し、かなりの経費削減を行った。

また、昨年に続き夜間の立入りを制限し事故発生の防止に努めた。

(5) 生涯学習フェスタ

生涯学習フェスタは、本学キャンパスを開放し、地域の方々の作品展示、体験学習および地域特産品即売会等を行ない、人気を博していた。また、来場者と作品等出展者との相互交流や情報交換は積極的に行なわれ、それなりの成果を収めた。平成22年度より、基調講演を取りやめたが、「懐かしの歌広場」や「いきいき3B体操教室」等、体験型のイベントは多数の参加者があり、地域の方々の学習意欲高揚に貢献できたものとする。

(6) 各種講座等

「たいし塾」や「公開講座」は、本学の知的資源や教育情報サービスを広く社会に提供し、また、生涯学習に参加される人々にとって快適な「交流・情報交換の場」「多様な学習機会」の創出を目的としたものである。講座はこれまで多岐の分野にわたって開催してきた。公開講座は受講生のニーズや他の講座との統一性を図るため、平成22年度から時間を短縮して開催した。4回シリーズのつながりがより重視されるようになり、受講生からも好評を博している。また、「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」における公開講座は同ネットの開設当初から参画している。これまでに多くの受講生を集め、講座アンケートの結果から高い評価を得ている。その他、羽曳野市・同市教育委員会とは地域住民を対

象にこれまで「公開シンポジウム」「はびきの市民大学」を共催事業として開催してきた他、公的機関や施設および企業等からの講座や研修会、講演依頼に対する講師派遣についても積極的に行っている。特に内容（目的・テーマ・対象者・日時・場所等）を十分に検討した上で、施設開放・人的資源・知識・情報の提供を行っているため、地域の方々の学習意欲にも応えることができ、社会に貢献している。

（7）高大連携

大阪府立の藤井寺高校、懐風館高校、北かわち阜が丘高校、河南高校においては、継続して高大連携事業を行うとともに、内容の充実を図った。（藤井寺高校：社会福祉コースと保育コースに加えて教育コースを設けた。懐風館高校：年1回の連携授業を2回に増加。）また、藤井寺高校、懐風館高校とは、新たに「IBU高大連携プログラム」を作成するにあたって相談を行った。

また、他の高校とも連携の可能性を探るため、大阪府内は久米田高校へ説明に行った他、奈良県立の桜井高校、高田高校、橿原高校、高取国際高校、香芝高校を訪問した。

【5-3. 改善・向上方策】

（1）オープンカレッジ

オープンカレッジにおいては、受講者参加地域等の調査による配布先の検討や、本格的な実施をする前に短期講座（1日体験講座）による受講者のニーズ・興味を的確につかむ方法も取り入れていきたい。また、夜間講座を充実させ、社会人や昼間忙しい方も受講できる講座づくりにも着手しなければならない。また、受講者のアンケート調査も重視し、できる限り要望に応じていけるよう講座を企画、検討することも必要である。

（2）介護技術講習会

介護技術講習会については、年々減少傾向にある受講者確保に向けた施策を検討するとともに、今後の実施回数を勘案していくことも必要である。また、本講習会自体の今後の動向によっては取り止めることも検討していかなければならない。更に、委嘱する指導者についても、マナー化しないように新しい人材を育成していかなければならない。

（3）教員免許状更新講習

教員免許状更新講習については、本学の特色を生かした講座を開設することを重視したい。本来は、教育職員の資質向上を目的としているが、それを踏まえ、事前の意識調査などで得た回答に基づいた内容が実施できるような講座づくりに注力し、現職教師が自信をもって教壇に立てるような最新の情報を提供したい。一方、受講者の獲得については近隣の教育委員会と連携し、関連機関へ案内を送付するなど積極的に働きかける必要がある。

（4）IBU桜WEEKS

IBU桜WEEKSは、本学が地域社会との共生・協調を強化するための行事と位置付け、長期的展望に立って継続的に推進していきたい。今後も、本学の誇る美しい桜を多くの地域住民に心地よく観賞していただくことに主眼をおいた行事とし、そのため開催時期、期間、実施内容、経費、安全対策、警備・巡回等の見直しを行い、長きにわたり地域住民に親しまれる行事にしていきたい。

（5）生涯学習フェスタ

生涯学習フェスタは、地域の方々の生涯学習の場として、また、本学が有する知的資源

を提供する場として開催しており、今後も地域住民の方々の多様なニーズに応じていきたい。また、出演団体や出店者の選別および場所の設定等を見直していきたい。開催イベントについては、今後もより本学と地域の交流を深めるよう内容の充実を図っていきたい。

(6) 各種講座等

有料講座、無料講座を問わず、大学の経費負担が大きな検討課題となっている。特に負担の大きかった特別公開講座「たいし塾」は過去、年間3期開講していたところを2期制とする等、経費の節減に努めてきたが、依然その負担は軽いものではなく、厳しい経済情勢の中、更なる経費の節減に努める必要がある。地域への貢献という観点に重きを置いて、開催場所を毎日文化センターから本学の藤井寺駅前キャンパスに変更し、講座を継続させた。また、担当教育職員への依頼頻度にも個人差がある。講座の充実度は維持させた上で、一人当たりの負担削減にも配慮しながら企画・運営を行う必要がある。

(7) 高大連携

今後、大阪府立阪南高校へ介護福祉関連で訪問予定であるほか、奈良県5校訪問の結果を踏まえて、長野高校と狭山高校の訪問を予定している。そのほかにも近隣の高校に対してプログラムへの参加を求めていく。

また、これらの進捗状況に対応して、「IBU高大連携プログラム」の内容の確定を行い、実施に向けて高大連携校と協議に入る。各高校の実態と生徒の要求に即した教育プログラムの開発と充実を図らなければならない。

今までの経験を踏まえながら、真に地域社会に貢献できる大学として、生涯学習や諸行事等を鋭意推進しているところであるが、種々問題となる事項も残されており、必ずしも満足できるものではない。将来を展望し、より身近で密度の濃い連携を実施するために、地域住民のニーズ、本学のおかれている地域特性・独自性を考慮し、行事等を適宜見直し再構築する必要がある。

【資料5-3】 地域貢献の取り組みについて